

2024年度 授業改善アンケート集計結果に対する意見

社会イノベーション学部

学部長 南山浩二

科目開設部門が社会イノベーション学部である授業科目において、2024年度に実施された授業改善アンケートの結果全体について、コメントを述べることにしたい。授業改善アンケートの集計結果をみると、2024年度授業も、概ね高い評価を得ており、全体として授業は適切に実施されていたと考えられる。

授業全般に対する評価である項目14「この授業は総合的に判断して自分にとって有意義だった」の平均値は4.38点と高い値を示している。2022年度、2023年度、それぞれの平均値が、4.30点、4.39点であり、授業全般に対して高い総合的評価を維持しているといえる。また、項目12「この分野への興味・関心が引き起こされた」の平均値も4.24点となっており、項目14との相関係数(r)をみると顕著な相関を示していることから、当該分野への興味・関心が引き起こされたことが高い総合的評価に結びついているとも考えられる。

教員による授業の適切な実施や学習意欲を高める取り組みに関する9項目であるが、すべての項目において、平均値が4点以上となっている。まず、授業の適切な実施に関する基本的な側面といえよう5項目を見てみると、項目4「シラバスと授業の内容は一致していた」が4.54点、項目3「教員は休講や遅刻をすることなく授業を行っていた」が4.51点、項目6「教員は教室内が学習にふさわしい状態（私語等対応）に保たれているよう心掛けた」が4.44点、項目5「教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった」が4.40点、項目7「教員の板書・授業資料は見やすかった」が4.35点となっている。これらの項目と項目14「この授業は総合的に判断して自分にとって有意義だった」との相関係数(r)をみると、いずれの項目も顕著な相関を示しており、項目7「教員の板書・授業資料は見やすかった」が0.60、項目5「教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかった」が0.59、項目4「シラバスと授業の内容は一致していた」が0.56であった。授業の総合的評価にとって、まずは、授業実施のあり方の適切性が重要であることが理解できる。

受講生の学習意欲を高める教員の取り組みに該当すると考えられる4項目についてであるが、項目9「教員は質問への回答や課題の返却・解説等を十分にしていた」が4.38点、項目13「この授業のレベルは適切であった」は4.31点、項目8「教員は発言・議論等授業参加を積極的に促していた」が4.18点であり、項目10「授業の課題は適量であった」について「適量」と回答した割合が74.1%に及んでいる。これらの項目と項目14「この授業は総合的に判断して自分にとって有意義だった」との相関係数(r)をみると、項目10「授業の課題は適量であった」以外の3つの項目で顕著な正相関を示している。この結果から、授業実施のあり方の適切性に加えて、学生が授業内容への理解を深めていくこと

ができるよう教員が取り組むことで、学生の学習意欲が高まり、授業についての高い総合的評価に結びついているものと考えられる。

そして、授業に対する学生の取り組み状況に関する3項目である。項目1の出席状況では、「①0回」(35.5%)、「②2～1回」(45.0%)であり、項目2「この授業の内容を理解するために努力した」の平均値は4.34点となっており、学生が真摯に授業に臨んでいる姿勢を読み取ることができる。しかしながら、項目11「1回分の授業にあたり、授業時間外の事前・事後学習のために費やした平均時間」に対する回答を合算すると、1時間未満が72.1%と、昨年度と同じく7割を超える結果となっており、事前・事後学習をさらに促していくことが今後の課題である。これらの項目と項目14「この授業は総合的に判断して自分にとって有意義だった」との相関係数(r)をみると、項目2「この授業の内容を理解するために努力した」のみが比較的強い相関を示していることから、授業時間以外での継続的な学びをどのように促していくかが課題となっているといえることができる。

また、本アンケートでは、「授業で用いられた授業手法」と「授業を通じて身につけた資質・能力」についての質問も設けられている。「授業で用いられた授業手法」については、「課題(レポート等)」が73.4%と顕著に高く、次いで、「グループワーク」

(26.3%)、「学生によるコメントペーパー」(25.6%)、「質疑応答」(19.8%)となっており、本学部では様々な授業手法が採用されている状況がみられる。さらに、大学全体の授業科目と比較すると「反転授業」を除く全ての手法において割合が多いことが分るが、今後も授業手法についてのさらなる工夫が求められるだろう。「授業を通じて身につけた資質・能力」については、その分野の知識・学力のみならず、言語運用能力、コミュニケーション能力、論理的思考力、柔軟な発想力など多様な資質・能力の涵養につながっていることがうかがわれるものの、大学全体の授業科目と比較すると、「数理的能力」の割合のみが低い状況にある。科目開設部門が社会イノベーション学部である授業科目には、授業手法や身につけた資質・能力について以上のような特徴があるが、さらに検討を続けていく必要があるだろう。

最後に、本学生授業改善アンケートは、「実施必須科目」では実に98.0%、「実施任意科目」においても70.5%で実施されており、授業に参加していた多くの学生の評価を十分にふまえた結果であるものと判断できる。他方で、延べ履修者数に対する延べ回答者数は約7割にとどまっており、また、各項目において「無答・無効数」が一定数あることから、告知方法やアンケート項目の工夫など、アンケート実施のあり方を適宜見直していく必要があるといえるだろう。